

希学園 第398回 小6公開テスト 解説動画

下記、URLよりご視聴いただけます。

動画タイトル	URL
第398回公開テスト 小6国語 解説動画(2025年7月13日実施)	https://vimeo.com/1100916079/71a5226b49

1

a 精度

b 起動

c 刷新

2

I エ II ア III ウ

3 A I 進歩

4 (記述題)

5

14字 自ら

16字 主体

6 A 五里

B デ C 旗

7

変化 能力

8 哲学対話

9 エ

10 イ

11 ウ

2

a 整 える

b 代謝

c 酸化

2

(記述題)

3 I イ II オ III ア IV エ

(完答)

4

A う B し C わ D す

5 色覚障がい

6 弱点

7

(記述題)

8 ア

9 エ

10 イ

1

子どもが大人になって社会に出たときに困らない力を身につけさせるのが教育だが、未来の社会が見通せないで、身につけさせるべき力もわからなくなる。

(同意可)

2

薬草にくわしい「ぼく」のじいちゃんに、背をのばしたいというなやみの相談をしようとしているから。

(同意可)

7

みんなで顔の絵を描いていた二年生のとき、「ぼく」がくちびるの色をまちがえてぬったことを友行にからかわれ傷ついたこと。

(同意可)

【配点】	
1	1
4	6
その他	
2	2
2	4
7	
各2点×13	26点
各6点×3	18点
各4点×14	56点

① (土屋陽介『僕らの世界を作りかえる哲学の授業』より)

1 a 「精度」は正確さの度合い。「制度」としないように注意すること。b 「起動」は動きや働きを起こすこと。「機動」「氣道」などの同音異義語と確実に区別しよう。c 「刷新」は弊害を除き去って、まったく新しいものにする事。

2 Iは前の「私が小学生の頃」と後の「いま」を対比するために「しかし」が入る。IIは最近のAIの具体例を並べているので「また」が入る。IIIは前の内容を受けて今後どのようなことになるかということが述べられているので「すると」が入る。

3 文章冒頭からの四つの段落をすべてまとめて指している。第二、第四段落は具体例となっており、それらをまとめた表現として第一段落に「AI(人工知能)技術の加速度的な進歩」というのがまず示されていた。

4 「さらに深刻な問題を生み出します」と述べた以上は、この続きにその内容が示されるはずである。直後の段落にて教育の場面における問題が述べられている。

5 この後に続く三つの段落では問題点が浮き彫りにされ、その後の段落より「これからの学校教育」において求められるものが示されていく。その中で、「自ら課題を見つけて自ら学ぶ力」と「主体的に考え、判断し、行動する力」が並べて述べられている。

6 A「五里霧中」は物事の判断がつかなくて、どうしていいか迷うこと。B「アップデート」は元々コンピューターにおいてソフトウエアの内容をより新しいものに変更することで、最近はそれを我々の知識や能力にあてはめた用法もよく見られるようになった。俗に「アプデ」と略して使われる。C「旗を振る」は運動などを推し進めようとして、率先して人々に働きかけること。

7 見つける答え自体は五十一字と、字数が多くなっているが、「生きる力」の言い換えはどこにあるか、と考える。本文終盤に「すなわち『生きる力』」とあり、この前に答えがある。

8 問題提起から解決方法を示すという論説の基本的な流れに従い、筆者の具体的な提案は後半で述べられている。「具体的な手法の一つとして、教育関係者の間で急速に関心を集めつつあるのが、哲学対話なのです」と紹介している。

9 指示語を含む一文が長いが、しっかり読んだ上で選択肢を吟味しよう。「これは……現状の授業の方法を……変えていくことを意味しています」とあるので、「明記されたこと」とあるエが正解である。

10 Xには「多面的」(ものの在り方や見方がいろいろな方面にわたっているさま)、Yには「抜本的」(根本に立ち戻って是正するさま)、Zには「具体的」(はつきりとした実体を備えているさま。個々の事物に即しているさま)がそれぞれ入る。

11 A「感動」がおかしい。「うすら寒い」とあった。ぞっとしているのである。イは可能性がないわけではないが、ここまで具体的に言及していない。ウは「じつは文部科学省は、1990年代から……予見していて……」とあったので正しい。エは「学ぶ意味もまったくない」というのが言い過ぎである。

② (志津栄子『ぼくの色、見つけた!』より)

1 a 「整える」は乱れないようにすること。「調える」は必要なものをそろえるという意味で使うので、使い分けられるようにしておこう。b 「代謝」は古いものと新しいものが入れ替わること。c 「酸化」は物質に酸素が化合する反応。「抗酸化作用」とは活性酸素による過剰な酸化反応を抑えるはたらきのこと。老化を抑えたり、病気を予防したりすることにつながる。

2 友行が「ぼく」に「友行はじいちゃんにどんな用事があるんだ」と聞かれているところがある。友行はじいちゃんに真剣に相談したいことがあったのである。

3 Iは「濃縮されている」イメージに合うもの。IIはなやみごとを打ち明けた後の「うれしそう」な友行の心情を表すもの。IIIは友行が考えこんでいる様子。IVは「大きく息を吸う」と合うもの。

4 A「うながされて(うながす)」はある行為をするように仕向けること。B「しんみょうな」は態度がおとなしく、素直なこと。C「わだかまっていた」は心に不平・不満・不安などがあって晴れ晴れしないこと。D「すつとんきょうな」はひどく調子外れでまぬけなさま。

5 直後の発言に「ぼくはちがいに気づかない」とある。さらに続きを読んでいくと「クコの実が友行とはちがう色に見えてるんだと思う」とある。これはつまり「色覚障がい」である。

6 「友行が背のことを言いだして」とある。背のことを言いだした場面を振り返ると、「弱点を言うなんて」とあった。「ここより前」という指定があるので「弱み」ではない。

7 この部分を読んだ段階では何のことかわからない。後半で「ぼく」が友行に「あのこと」について話す場面があり、そこで明らかになる。そこまで気にしながら読んでいこう。ちなみにこの事件も「ぼく」が色覚障がいを気にしていたことがポイントとなっている。

8 「まさかあの友行に最初に話すなんて……」というイメージである。「意外」「おどろき」といった感情だろう。ただし、ウはおどろいた内容が異なっている。

9 不適当なものを選ぶことに注意しよう。エは友行に「あのこと」を話した直後に感じたかもしれないが、このタイミングではもうなくなっているだろうし、「声を立てて笑ってしまった」という行動とも結びつかない。

10 これも、正しくないものを選ぶことに注意しよう。平林先生が自分のお父さんのことをみんなに話したというのは、平林先生の父親が色覚障がいであったこと、すでにクラスみんなが色覚障がいについて知ったことまではわかるが、平林先生が「ぼく」の色覚障がいを知っていてその話をしたかどうかということまではここだけではわからない。勝手な推論をしないようにしよう。